

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年8月31日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 ※日下部キャスターは香港で取材中		
検証テーマ：オープニング、香港デモ、北朝鮮、小泉進次郎議員が結婚後初の国政報告会 【特集】拘束された“民主の女神” 【特集】揺らぐ日米韓の連携		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀豪雨被害</li> <li>・オープニング</li> <li>・香港デモ</li> <li>・茨城県あおり運転事件で被害者立ち会いのもと現場で実況見分</li> <li>・富津保険金殺害事件</li> <li>・北朝鮮</li> <li>・大分県で温泉遊園地</li> <li>・高知県南国市で赤ちゃんハイハイレース</li> <li>・宮城県大崎市で全国こけしまつり</li> <li>・北海道岩見沢氏などで1時間100ミリの豪雨</li> <li>・秋田沖で竜巻</li> <li>・小泉進次郎議員が結婚後初の国政報告会</li> <li>・東京都で禁煙強化の条例がまず一部施行</li> <li>・茨城県高齢夫婦死傷事件</li> <li>・【特集】拘束された“民主の女神”</li> <li>・【特集】揺らぐ日米韓の連携</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし                      番組の冒頭で金平キャスターがスタジオで「ええ、木を見て森を見ずということわざがあります、一部のことばかりに目を奪われて全体が見えなくなる。日韓関係の悪化には対立ばかりも伝えるメディアにも責任があります、一方で決して見逃してはならない出来事もあります、それが全体状況を象徴するからです。ええ香港の民主化運動のリーダーの逮捕がそうです、特集でお伝えします。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は22秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・香港デモ：結論→特に問題なし                      スタジオで膳場キャスターの「では、ニュースです。政府や警察への抗議活動が続く香港で警察が許可しなかったデモ行進が強行されました。」というコメントに対し宇内キャスターが「今後の動きによってはデモ隊と警察との衝突も懸念されます。」と返す形で導入がなされ、以下に朱記したVTRが取り上げられた。  <b>"森岡紀人（報告）「高級ブティックなどが並ぶ香港島の中心部です、こちらの大通りですが大勢のデモ隊が占拠</b> </li> </ul>		

しています。」

ナレ「警察は今日のデモについてデモ隊の過激化を理由に開催を認めておらず、デモを計画していた民主派団体も参加者の安全を確保できないとしてデモの中止を発表していました。しかし、デモの集合場所には多くの人が集結、デモをするのは自由だなどと叫びながらデモ行進を強行しました、また香港島の運動場では許可申請のいらないキリスト教の集まりという名目で政府や警察に抗議する集会が行われその後参加者は警察本部などに向かって更新をはじめました。」

"参加者 A「香港政府はテロ政府になってしまった。」

参加者 B「理由もなしにリーダーたちを逮捕してとても怒っています。」 "

ナレ「昨日、2014 年お普通選挙の実施を求めるデモ、雨傘運動を指導した民主派団体のメンバーや民主派の議員らが逮捕されたことで市民らは一層反発を強めています、警察は 3000 人体制で中国政府の出先機関などの警備にあたっていますが、デモ隊と警察の動きによっては衝突も懸念され緊張が高まっています。」

このトピックに当てられた時間は 109 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮：結論→特に問題なし

北朝鮮を巡って宇内キャスターが宇内梨沙「北朝鮮のチェ・ソンヒ 第一外務次官はアメリカのポンペオ国務長官による北朝鮮に関する発言を強く避難するとともに米帳実務競技の開催はより困難になったとする談話を発表しました。これは朝鮮中央通信が今日午前伝えたもので、チェ氏はポンペオ国務長官が 27 日、北朝鮮のならず者のような行動は感化できない、と述べたことに対し、非理性的な発言をして我々をまたもや刺激したと強く避難しました。そのうえでチェ氏は米朝実務競技の開催はより困難になったと言及しています。一方、来月ニューヨークで行われる国連総会で北朝鮮がリ・ヨンホ外相を始め本国からの代表団を送らないと国連に通告したことが JNN の取材でわかりました。各国の首脳が揃う国連総会で北朝鮮本国から代表団が来ないとすれば極めて異例です。リ外相は 23 日の談話で我々は対話でも対決でも全て準備ができています、とアメリカを牽制していました。」と伝えていた。このトピックに当てられた時間は 74 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・小泉進次郎議員が結婚後初の国政報告会：結論→特に問題なし

スタジオでの膳場キャスターの「来月予定されている内閣改造を巡って自民党の小泉進次郎衆議院議員はどんな立場でも自分にできることを最大限やっていきたい、と述べました。」とのコメントを受けて以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

小泉進次郎（衆議院議員）「これからどんな立場であっても、その思いを持って、与えられたところで、しっかりと自分でできることを最大限やっていきたいなと思います。」

ナレ「小泉氏は今日、地元の神奈川県横須賀市で結婚後初めてとなる国政報告会を開き、支援者に結婚を報告しました、また、内閣改造について閣僚の打診があった場合について記者団から問われると、決めるのは総理としつつもどんな立場でも自分にできることを最大限やっていきたい、と述べました。」

このトピックに当てられた時間は 48 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】拘束された“民主の女神”：結論→特に問題なし

中継との間で以下に朱記したやり取りが導入部分で行われていた。

"膳場貴子「特集は民主派のリーダーが相次いで逮捕された香港です、現地には日下部キャスターが言っています。日下部さん。」

日下部正樹「はい、香港では昨日ですね、日本の国会議員に当たる立法議員三人を含む九人の民主派リーダーが一斉に逮捕されるという香港社会にとっても前代未聞の出来事が起きました。こちらにはですね昨日逮捕され保釈された周庭さんに来てもらっています、周庭さんこのニュース日本でも非常に大きく取り上げられています。」  
周庭「そうですね、たくさんの日本の報道も見ましたしこれから香港への注目度上げればいいなと思います。」  
日下部正樹「はい、あの後ほど周庭さんには詳しくお伺いしますが、いま、この香港でですね、何が起きているのか取材しました。」

このやり取りを導入に以下に朱記したような特集が取り上げられていた。

ナレ「容疑者の身柄を中国本土に引き渡せるようにする逃亡犯条例の改正案を巡って大規模な抗議活動が続く香港、昨日朝衝撃的なニュースが伝わった。5年前の雨傘運動で中心的な役割を果たし今年の一連のデモにも参加していた香港の民主派団体デモシストのメンバーが警察に逮捕・拘束されたと、香港メディアが報じたのだ」  
香港警察「6月21日警察本部が包囲された事件で男1名、女1名を逮捕した。」

ナレ「逮捕されたのは団体の幹部、黄之鋒さんとメンバーの周庭さん。警察によると二人には6月21日の警察署を包囲した抗議活動で市民の惨禍を扇動した疑いがかけられ、レイル、黄之鋒さんは雨傘運動に関連する罪で実刑判決を受け今年6月に出所したばかりだった。周庭さんは日本語に堪能で度々来日し香港の民主化について公演しメディアに訴えていた。今回の逮捕は今日予定されていたデモを意識したものだ、と二人が所属する民主派団体は指摘する。」

民主派団体メンバー「8月31日の抗議活動を前にした逮捕は、運動に参加する香港の人々に恐怖心を与えたいからだ我々は考えます。」

ナレ「二人は昨日午後に起訴され、夜になって保釈された。」

周庭さん「けさ、警察が自宅に来た私を逮捕しました。許可されていない集会への惨禍と活動への扇動という理由です。」

黄之鋒さん「保釈の条件はとてもしつかった。夜の11時から朝七時まで外出は禁止され自宅にいないならならぬ。」

ナレ「このあと、JNNへの取材に周庭さんが日本語で応じた。」

周庭さん「中国政府、香港政府は人を怖がらせるために、逮捕、起訴して暴力的な手段、そして法的な手段を、緊急法を含めていろんな手段を考えている、使っているんじゃないかなと思います。でも、こんなに強い弾圧の前にわたしたち香港人は諦めません、逮捕されても起訴されてもこれからも引き続き香港の民主化運動に参加していきたいと思っています。」

ナレ「抗議活動の象徴的存在とも言える若者たちの逮捕、それは当局の危機感の現れだった。」

日下部正樹「すごいな、時々こうなんか、どよめきのようにですね、市民の声がこちらに聞こえてきます、今は撤回撤回撤回と言っていますね。」

ナレ「香港の歴史を塗り替えたと言われた6月16日の200万人デモ、高まる抗議の声に逃亡犯条例の改正は事実上断念に追い込まれた。しかし香港政府は完全撤回を明言しなかったため、若者たちは激しく反発した。先月1日、若者たちはついに議会に突入。香港警察は催涙ガスなどを使って強制排除したが混乱が収まることはなかった。今月11日にはデモに参加した女性が警察が発射した鎮圧用の弾に撃たれ右目に重症を負う事件が発生した。香港国際空港には抗議する人々が集まり連日多くの欠航便が出る事態に至った。警察の対応に怒りを募らせる市民。6月のデモ以降、逮捕者は700人を超えている。そうした中、」

ナレ「これは、一昨日公開された中国の武装警察と公安警察の合同訓練の映像だ。香港に隣接する深センで行われたもので武装した警察官がデモ隊を制圧する様子が映し出されている。今月に入って中国はこうした訓練映像

をほかにも後悔している、デモを強く牽制する狙いがあると見られている。強まる香港市民への圧力。」

ナレ「それにあらがっているのが民主の女神と呼ばれる周庭さんだ。周庭さんとはどんな人物なのか。初めて学生運動に参加したのは高校生の時、中国共産党を称える道徳教育を香港に導入する制度に抗議する活動だった。二年後の雨傘運動には学生団体のスポークスマンとして参加した。東京大学での講演会に招かれた際にこう振り返っている。」

周庭さん「(運動に参加する前は) 全然政治のことは全然関心は持っていなかったもので、本当に普通の勉強が嫌いなオタクでした。あ、ちなみに私がなぜオタクなのかと、なぜ日本語を勉強したのは本当に日本のアニメとか後はアイドルグループとかバラエティ番組からいろんな日本語を勉強しましたので、

"ナレ「雨傘運動後には仲間とともに仲間とともに民主派団体香港衆志(デモシスト)を創設した。デモシストは親中派が大勢を占める香港立法会に民主派の議員を送ることを目指している。」

周庭さん「今度補欠選挙の投票があります。民主派の一番に投票してください。」

市民「あなたが立候補できなくて本当に残念。」

ナレ「2年前の立法会議員の補欠選挙に自らも出馬を表明したが選挙管理委員会がこれを認めず立候補資格が取り消しになった、その訳について。」

周庭さん「まあ政府からの理由は私はデモシストのメンバー、そしてでもシストは民主自決を主張している政党なので、で民主自決という主張は基本法違反」

ナレ「デモシストは党の綱領で民主自決を掲げている。香港の未来は民主的な方法で決めるという主張が憲法にあたる香港基本法に抵触すると判断されたのだ。」

周庭さん「私達、民主を求める人をよく香港政府、中国政府から基本法違反とか基本法を尊重していないと言われてはいますが、でも、今、一番基本法を尊重していない人は中国政府だと思います。全人代が常に釈法(法解釈)という方法を使って、香港の政治制度、選挙制度をコントロールすることも本当の法治社会であるものではないと思います。」

"ナレ「周庭さんは講演で、こんな質問も受けている」

質問者「二人が、香港に戻って色々そのなんというか大丈夫なんだろうかという気持ちを持ったのですが。」

周庭さん「安全という問題というか、安全の模台はあると思いますけれども、これからも、でも後悔することは絶対しないと思いますね。」

"ナレ「これは去年の暮に来日した周庭さんを密着取材したときの映像だ。」

日下部さん「香港は暖かかったんでしょ、この前。」

周庭さん「日本と比べると。」

日下部さん「この前25度くらいあったんでしょ、」

周庭さん「はい、でも香港でもすごい寒い時がありますよ1月に、香港でも暖房がないから結構寒いんですよ。」

ナレ「日本の神社が大好きだという周庭さん。この日、東京新宿にある花園神社を訪れた。」

日下部正樹「何をお願いしたの。」

周庭さん「香港が民主制度になりますように、結構真面目な。」

日下部正樹「本当だ、すごい真面目。」

周庭さん「願望ありますけど。」

ナレ「ここは原宿？」

日下部正樹「まあ原宿、表参道ですね。」

周庭さん「最近、日本の若者の間にTiktokっていうアプリがすごく流行っていて知っていますか。Tiktok。ア

プリなんですけれども、でも Tiktok 実は中国のアプリなんですよ。」

日下部正樹「ああ、そう。」

周庭さん「そうですよ、だから私は使わないんですけれども。」

ナレ「中国製アプリは使わないと話す周庭さんだが、普段見せる姿はどこにでもいる20代の女性だ。」

周庭さん「毎回日本に来るときにも一人カラオケします。私は性格的にオタクなので。一人カラオケしますか？」

日下部正樹「しません。バカみたい、そんなこと言っちゃいけないか。」

周庭さん「ええ、楽しいですよ。」

日下部正樹「香港でも一人カラオケするの？」

周庭さん「香港ではJポップが好きなので香港のカラオケはJポップがあまりないんですよ、古い曲はありますけれど。」

ナレ「周庭さんは香港の現状を伝えるため、Twitter で英語だけではなく日本語でも書き込みを続けてきた、だが連日行ってきた書き込みは今日21日を最後に更新が途絶えていた。衝撃の逮捕から一夜明けたけさの香港。小雨が降る中路線バスが走る。街は普段どおりの朝を迎えているように見える。」

"日下部正樹「ええ、こちら香港の今朝の新聞なんですけれども、どの新聞もですね、昨日に民主はリーダーたちの一斉逮捕について大きく見出しをとっています、こっちの方はですね中国寄りの新聞なんですけれども、香港独立派のですね、小リーダーを逮捕した。小をつけることによって非常に侮蔑的な見出しとなっております。」

ナレ「香港の立法会、2ヶ月前に訪れた際には壁一面に民主派のメッセージがはられていた。けさ訪ねるとメッセージは全て剥がれていた。香港政治に詳しい立教大学の倉田徹教授は一昨日から研究のために香港を訪れていた。周庭さんとも連絡を取り合ってきたという。」

"日下部正樹「昨日の子、一連の拘束というか逮捕、こういった動きって想像されていきましたか。」

倉田徹（香港政治に詳しい、立教大学教授）「ある程度覚悟は決めてたと思うんですね、というのは6月の21日に警察署を包囲したというその件に関する違法集会に関連するその罪状なんですけれどもそこに集まった人たちも殆どマスクをしてやっていたわけなんですけれども、アグネスさんらは顔を出していたわけですよね。で、まあ当然ながらああいう運動をすすめるということはある種逮捕されるということもまあ想定はしているはずですね。やはり心配されるのはですね、この先、司法の独立ですね、特に政治的な問題に関わった人達に対する司法の扱いというものが公平に行われるという状況がちゃんと維持されるかどうかですよね、そこが私としては一番心配です。」

"ナレ「デモは今後どうなっていくのか。」

日下部正樹「香港政府はどういうふうにデモをどのようにコントロールしていこうと思っているのでしょうか。」

倉田徹「政府としてはある種、持久戦に持ち込んで、香港の市民がまあある意味自らデモを諦めるとそういう方向性を待っているということに尽きるのだと思うんですけれども、むしろ政府がどんどんどんどん苦しい立場に追いやられている。」

日下部正樹「若者たちが突入したり、なにか壊したりね、ああいう意味で日本で見ていると、市民の支持を失って行くんじゃないかと思いがちなんですけども。」

倉田徹「デモ隊が使っている暴力を避難する声はもちろんあるんですが、それよりも警察の暴力に対する非難の声が遥かに大きいんですね。非常に憂慮すべき状態でこのまま続いていきますと本当に香港の秩序が一体どうやって維持されるのかっていうことになってしまうと思いますね。」

"デモ隊「香港人頑張れ」

ナレ「今日午後、再び抗議活動が始まった。警察によるデモの許可が出なかったためキリスト教の集会という名

目だ。市民は様々な形で抗議活動を展開している。」

テロップ「違法行為だとの警告も」

ナレ「そして 2 時間ほど前。」

日下部正樹「どうしたの」

周庭さん「いや、電話、昨日没収されたので、で SIM カードも没収されたので SIM カードをちょっと新しい SIM カードをかいました。」

ナレ「私達は周庭さんと再開することができた。逮捕について今何を思うのか。」

日下部正樹「昨日の朝、来たんでしょ警察。」

周庭さん「そうですね朝の九時半くらいですね。」

日下部正樹「周庭さんは家にいたの？」

周庭さん「そうですね、部屋のドアを開けた瞬間警察が五人くらいいました、すごいびっくりしました。」

ナレ「このあと、香港から生中継で周庭さんから聞きます。」 "

特集を受けてスタジオと中継の間で以下に朱記したやり取りが繰り返され続けていた。

日下部正樹「再び香港です周庭さんに聞きます。周庭さん本当は年末に日本に行く予定だったんですね。」

周庭さん「はい、」

日下部正樹「ちょっと無理そうだね。」

周庭さん「そうですね、やっぱり裁判があるから色々制限されましたし、香港から出ることもできないでしょう、次の裁判は 11 月 8 日に裁判がありますけど、元々 12 月に東京に行く予定があって多分行けない可能性が高いと思います。」

日下部正樹「あのね、どんどん香港政府は取締を厳しくしているでしょ、今後皆さんの運動はどうなっていくんですか。」

周庭さん「そうですね、やっぱりもちろん政権からの弾圧もどんどんどんどん強まっていて香港政府そして中国政府も暴力、逮捕、起訴、そして法的な手段いろんな手段を使ってこの運動を弾圧してきましたけれど、でも香港人は諦めないと思います。これからも、今日もそうだし、これからも沢山のでも、そしてたくさんの抗議活動を香港人が引き続きやると思います。」

日下部正樹「はい、東京どうぞ。」 "

"膳場貴子「はい、周庭さん、東京です。周庭さんあの、逮捕することによって勢いをそごうという思惑が当局にあったと思うんですけども、保釈されたときの周庭さんの表情を見ているとね、決然とした強いものを感じました。周庭さんはこれからどういうふうに対応していらっしゃるかと考えていますか。」

周庭さん「私にとってやっぱり今回の逮捕、初めてではないんですよ。私は 3 回目、今回の逮捕は 3 回目ですけども、起訴されたのは初めてです。で、私にとってこんなにね、政権の弾圧が強まっていて私達はこれから弱くなるじゃなく、その反対に私達の意思がもっともっと強くなると思います。だから、日本の報道でよく、今の運動が 3 ヶ月も続けられて人数が減られるんじゃないですかという報道もありましたけど、私にとっては逆ですね、この前も 170 万人のデモがありましたし、これからも香港のいろんな人数の多いデモ大規模なデモがあると思います。」

日下部正樹「これからも続く。」

周庭さん「うん。」

金平茂紀「周庭さん、あの周庭さんは日本の若者たちとも随分交流があると思うんですけども、今の同世代の日本の若い人たちに対してなにかメッセージがあったら教えて下さい。」



周庭さん「そうですね、よく日本の若者とかにほんの市民があんまり政治に対して関心を持っていないということを知っていましたが、今回、香港に起きた運動で日本だけではなく全世界、世界中にもたくさん報道されてそしてたくさんの香港ではなくたくさんの外国人からの応援もありましたので、だから引き続き、日本の皆さんも香港の状況に対して関心を持っていただきたい、そして応援をしていただきたいと思います。」

日下部正樹「あの、私、周庭さんの言葉が一番好きなのは、香港は私の家です、私の家を自分で守るのは当然です。って言葉があります。」

周庭さん「そうですね、私は香港人です。そのアイデンティティが私にとって非常に重要なものですね、だからこのアイデンティティ、香港人としてのプライド、香港人としての誇りを持って、自分の街のために一生懸命戦いたいと思いますし、私だけではなくたくさんの香港の若者もそう思っています。」

日下部正樹「まあそうやって戦っている香港の人達の姿を周庭さんは日本語によって日本にも広めるしどんどん世界的にも知ってほしいわけですね。」

周庭さん「そうですね、まあ北京政府がどれくらい残酷な政権なのかって多分沢山の人も知っているかと思いますが、今、香港たくさん香港人が苦しんでいるとしても一生懸命戦っている姿は政権に見せたいと思います。」

日下部正樹「はい、本当に大変な中ありがとうございました。ええ、香港からは以上です。」

膳場貴子「はい、周庭さんありがとうございました。日下部キャスターには後ほど再び中継で伝えてもらいます。」

また番組のクロージングではもう一度香港との間で中継がつながり日下部キャスターの「私がいるのはですね、香港島のですね、主にクルーズ船が付き埠頭なんですけれども、今もクルーズから帰ってきた多くの市民がいます、一方でこの香港島の同じ繁華街では多くの市民がデモ行進に参加して警察が排除に乗り出している、全く違った、同じ香港島なのに全く違った光景が今、ここには混在しているわけです、一つ焦点は来週から新学期が始まります、デモを支えてきた若者たちの行動です。デモが収束するという見方があります、一方で先ほど周庭さんが言っていたようにですね若者たちの行動、これはまだまだ市民たちの支援、支持を受けているんじゃないか、こういう見方もあります。どちらに転ぶのか現段階では全く先が見えません。以上、香港からお伝えしました。」というコメントが取り上げられていた。

この特集に当てられた時間は 1561 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】揺らぐ日米韓の連携：結論→特に問題なし

スタジオで膳場キャスターの「では次の特集です。韓国が日韓の包括軍事情報保護協定、GSOMIA の破棄を決めたことで、日米韓の安全保障体制を揺るがしかねないという懸念が広がっています。」というコメントを受けて金平キャスターが「えー戦後最悪といわれる日韓関係。事態打開の道はあるのでしょうか？」と応える形で導入がなされ、以下に朱記した特集の VTR が取り上げられていた。

金平「えーソウルの日本大使館前です。従軍慰安婦の解決を求める定例の水曜集会が、今こうして行われてますけれども、」

集会参加者（字幕）「糾弾する。糾弾する。糾弾する」

ナレ「慰安婦や、徴用工、輸出管理強化の問題で悪化し続ける日韓関係。先週には、」

金有根国家安保室第一次長（字幕）「GSOMIA を終了することを決定した。」

ナレ「日韓で共有した軍事情報を、第三国に漏らさない協定、GSOMIA を破棄した。北朝鮮の、ミサイルなどに関わる情報交換に支障がでる懸念が広がっている。」

アメリカ・ポンペオ国務長官（字幕）「我々は韓国の決定に失望している。」

岩屋毅防衛相「失望を禁じえず、きわめて遺憾に思っております。」

ナレ「揺らぐ、日米韓の連携。実は、日米韓三か国は、GSOMIA が締結された 2016 年以前から、軍事上の機密情報をやり取りしてきた。水面下の日米韓の協力体制。その舞台裏に迫る。」

ナレ「全長 248 m。旧日本海軍の戦艦大和より 15 メートル短いだけの護衛艦か。これは報道特集のカメラが海上自衛隊呉基地でとらえた姿だ。防衛省は盛んに否定するが、どこから見ても空母の様相だ。」

ナレ「甲板を耐熱強化に改修し、F35B 戦闘機を運用する。事実上の軽空母誕生となる。」

ナレ「このニュースに、さっそく韓国海軍が反応した。今月、国防中期計画で日本と同様、軽空母と F35B 戦闘機の導入を発表したのだ。日本への対抗心がうかがえる。」

伊藤俊幸海将（元防衛省情報分析官）「となりの日本の海上自衛隊はこういうのを持っています。と理由だと、通ると。日本の持っているものを我々もほしいと。これです。」

ナレ「GSOMIA の締結以前から、日韓の協力関係は対北朝鮮で連綿と続いてきた。」

廣瀬清一陸将（元韓国防衛駐在官）「冷戦時代から日本と韓国は、まあ安全保障上、いろんな信頼関係、協力関係がありましたから、長年にわたって、情報のあの共有、ずっと、まあ逐次築き上げてきたんですね。」

ナレ「これを、支えてきたのが、日本の電波情報の収集能力だ。」

"スタッフ「日本のその、能力ってのはすごいわけですか？」

伊藤氏「そりゃそうです。アメリカが一番って言ってるんですよ。」

スタッフ「日本のことを？」

伊藤氏「頷く」

ナレ「日本周辺を、P3C 対潜哨戒機と、EP3 電子偵察機が 24 時間体制で極秘に情報収集にあたっている。特に EP3 は、防衛省の幹部でさえない搭乗が許可されない。最高レベルの機密、それが電波情報だ。」

"スタッフ「電波情報っていうのはどうですか？」

伊藤氏「言えません。ふっ。そりゃ言いません。」

廣瀬氏「元 OB としては、あんまりコメントしたくない。」

ナレ「99 年、日本海を舞台に熾烈な情報戦を象徴する事件が起きた。能登半島と、佐渡島沖で不審船が発見され、海上自衛隊の護衛艦が追跡した。追跡劇の最中、防衛省は、不審船と北朝鮮本国とのやり取りを傍受していた。」  
北朝鮮本国の指令（吹替）「拿捕されたら、自爆せよ。」

ナレ「追跡を振り切り、不審船は北朝鮮、清津にある工作船専用の基地に戻っていった。」

野呂田芳成防衛庁長官（当時）「これ以上の追跡は相手国を刺激し、事態の拡大を招く恐れがあると判断したので、」

ナレ「最終局面では、北朝鮮から飛び立ったミグ戦闘機 2 機に対して、小松基地から航空自衛隊がスクランブル。緊急発進をかけていた。一触即発だった。」

ナレ「数日後、韓国側からこんな情報もたらされた。」

音声「帰還した工作員を軍の幹部たちが拍手で出迎え、英雄とたたえていた。」

ナレ「その場にいなければつかめないヒューミント。つまり、基地の中に入るスパイからの情報だった。」

永岩俊道元空将「いわゆるヒューミントですね。韓国が、半島の中で同じ民族ということですね、場合によってはそういう情報っていうのは、韓国の得手ですから、あのそれはアメリカも含めてですね、日本も関心の高いところですね。」

永岩氏「なかなか日本では取得できない。アメリカとでも、なかなかその世界はですね、具体的に取得できないような情報を韓国ができる。まあ過去の実績というのがあるんですね。」

ナレ「最も、注目される情報が、北朝鮮トップの健康状態だ。2011 年、金正恩委員長の父親、金正日総書記が 70 歳で死亡した。この 3 年前、アメリカの情報機関は、彼が人工透析と受けているとの情報を入手。日本側に伝



えてきた。しばらくして、韓国のメディアがこの情報を特ダネとして報道した。日本の公安関係者は、報道でアメリカが韓国にも同じ情報を伝えていたことが分かったと明かしている。アメリカが中間に入って情報が共有されていたのだ。」

ナレ「海の忍者と呼ばれる潜水艦。領海ぎりぎりまで潜航し、相手が無防備な状態で出す音や電波を収集する。その能力は世界でもトップレベルだ。」

"潜水艦おやしお艦長「100キロ、200キロ、というようなスパンもあれば、何千キロというところもあります。」  
スタッフ「何千キロ？」

おやしお艦長「はい、離れたところからですね。」

"ソナー担当者「音を聞いただけで、その船の大きさと、えー種類、あと速力が、概略でわかります。距離的なものは、性能上の秘密ですので、はい。」

スタッフ「かなりとれる？」

ソナー担当者「はい、かなり取れます。」

ナレ「2010年、韓国海軍の哨戒艇が北朝鮮に近い公海で船体が真っ二つに割れて沈没した。事件直後、いち早く韓国に、北朝鮮の攻撃との情報を提供したのは、日本だった。」

トランプ大統領（字幕）「私は韓国を訪れるので、もし金委員長が非武装地帯に来るなら会えるだろう。2分でも構わない。」

ナレ「この呼びかけに応じて急遽会談が実現した。実はアメリカは、偵察衛星と韓国軍が得た電波情報で、金委員長が平壤を離れ、南部を視察するとの除法を掴んでいたという。アメリカの偵察衛星の能力は、現場の軍人の制服の階級章まで識別する。そして、演習の規模や内容を判断する。」

ナレ「GSOMIAの終了という状況で、日韓の制服組同士の信頼関係はどうなるのだろうか。」

永岩元空将「実は、厳しいとしてもですね、安全保障上はですね、お互い、冷静な、連携を保つ。あるいは情報の交換を含めてですけども、そういった関係を構築するってのが、ありうるべき、方向、だと思いますね。」

ナレ「GSOMIA破棄への懸念は、日本側だけではなく、韓国の軍関係者の間にも広がっている。」

ナレ「今月、25日には、退役軍人達が破棄に対する強い抗議声明を出した。」

ナレ「そのメンバーの一人、キム・ヒョンチョル氏。米韓連合軍司令部で、情報参謀本部長などを歴任した元中將だ。」

金平「今回のGSOMIAの破棄についてはですね、どのようにお考えになりますか？」

キム・ヒョンチョル氏（吹替）「GSOMIAは韓国と日本の軍事協力のかけ橋です。そして韓米日の3つの安保協力の土台なので、これが破棄されたら、韓国だけではなく、北東アジアの安保が、脅かされると思います。」

ナレ「金さんは日韓の連携のみならず、米韓の同盟も、瓦解させかねないと、危機感を強める。」

金氏（吹替）「今韓国の安保状況は、四面楚歌ならぬ、五面楚歌の状態です。中国、ロシア、北朝鮮、日本、そしてアメリカです。」

ナレ「ムン・ジェイン大統領の側近で、外交担当の特別補佐官、ムン。ジョンイン氏に直接話を聞くことができた。」

ムン・ジョンイン氏（吹替）「安倍政権は、文政権への不信感が最初から大きかったようで、文政権を革新政府だとみています。日本で革新と言え、社会党、共産党のことですから、文政権は親北・親中路線に進むだろう、信じられないというような先入観があったのではないかと思います。もしこうした先入観がなければ、いくらでも外交的に韓日間で解決できたと思います。」

金平「アメリカが、非常にあの、今回のGSOMIAのことについて、懸念を表明していて、それについてはどう

思われますか？」

ムン・ジョンイン氏（吹替）「それには同意しません。基本的に GSOMIA は韓国と日本の協定であり、韓国政府が決定すれば終わりです。なぜアメリカが、失望するとか、憂慮するとか、私からすると、礼儀を欠いていると思います。」

金平「このこじれた日韓関係を、今の時点では何をすべきだというように思われますか？解決のためには。」

ムン・ジョンイン氏（吹替）「一番大事なことは、対話でしょう。お互いに条件を付けない対話が必要です。その結果として、日本側は経済制裁を早く撤回し、韓国も GSOMIA の再延長を許容し、原状回復させることが非常に大事だと思います。そして、徴用工を含めた歴史問題は両国で共同委員会などを設けて、深く研究し、解決策を作るべきだと思います。」

集会参加者（字幕）「安倍政権の経済侵略を強く糾弾しよう。糾弾しよう。糾弾しよう。糾弾しよう。」

金平「えー従軍慰安婦の解決を求める定例の水曜集会がこのように行われていますけれども、えーあちらに慰安婦とその少女像ですね。日本の愛知トリエンターレの一連の展示で外部からの攻撃対象となった少女像が置かれていまして、えー非常に複雑な思いが致しますけれども、」

ナレ「この日は、日本が韓国への輸出管理の強化を正式に施行した日だった。現在の日韓関係について、集会に参加していた若者たちに聞いた。」

大学生（吹替）「両国の政府に責任があると思います。韓国の場合、1965年の韓日協定の時から間違っていたと思いますし、その時のボタンの掛け違いが今まで影響しているのでしょうか。一方日本は安倍政権の対応が間違っていると思います。それで衝突が続いているのでしょうか。」

高校生（吹替）「GSOMIA は本当に必要であれば、延長するけど、必要で無かったから、韓国政府が破棄の決定をしたと思います。」

ナレ「一方、夜になると別の集会が。」

金平「目の前にキャンドルを掲げた集会が今、ああー、文大統領の最側近といわれ、次の法務大臣の候補者であるチョ・ウク氏の不正疑惑を糾弾するまあソウル大学の学生集会が行われているんですけど、」

ナレ「チョ・ウク氏の娘の不正入学疑惑などが取りざたされ、極端な学歴社会の中にいる若者の怒りに火をつけた。韓国の最新の世論調査では、文大統領を支持しないが49%と、2週連続で支持を上回った。」

ナレ「戦後最悪とも言われる日韓関係。市民の中には、メディアが対立をあおっているのではないかという冷めた声も聴かれる。」

大学生（吹替）「韓国のマスコミが日本に敵対的でなければいいと思います。マスコミで報道される日本の意見よりも、日本の現地の人たちがどういう考えを持っているか気になります。」

女性（吹替）「政府同士が仲が悪いのでしょうか。この間もフリーマーケットで日本人を見ましたよ。」

ナレ「韓国の主要な新聞やテレビの立場も分かれています。」

ナレ「GSOMIA 破棄については、ハンギョレ新聞や、京郷新聞は、安倍政権が招いたことだと文政権の決定を支持する記事を掲載。」

ナレ「京郷新聞のソ・ウィドゥン論説委員。2011年から、3年間、東京特派員を務めていた。」

金平「日本の市民とか、韓国の新聞とかの、話をね、直接聞くんですけどね、そのメディアが、対立をあおっているように見えると。」

"京郷新聞 ソ・ウィドゥン論説員「それは認めざるを得ない。」

「ここまで書かなくていいということも、まあ、わざと書いたりすることは、ありましたけど、それがしょっちゅうあったと思うですね。」"

"ナレ「しかし、GSOMIA 破棄については」

ソ氏「青瓦台の当局者によるとですね、7月にですね、韓国から特使を2回日本に送ったと。でも日本は応じなかったと。ですから、韓国もそれなりの努力をしていたのですね。いま、ちょっと頭を冷やすべきほうは、むしろ日本かもしれないですね。」

ナレ「一方、社説で、米韓同盟、核への対応、十分考慮したのかと文政権を批判した東亜日報。元編集局長、シム・ギュソンさんは、」

東亜日報 元編集委員 シム・ギュソン氏（吹替）「GSOMIA が必要ない破棄すべきという人の考えは、国益のためと言うより、対日関係。韓国と日本の気まずい関係のために一つのカードとして使ったと私はみています。なので私は反対です。」

ナレ「そして、日韓関係悪化の原因をこう分析する。」

シム氏（吹替）「韓国が日本の信頼を失ったというのが、そのとおりです。でも日本の今回の措置は礼を失したと私は思います。日本は信頼を重要視し、韓国は礼儀を重要視します。だからお互いに怒り、強硬姿勢になるのです。そのことを両国がお互い、よく知る必要があると思います。」

ナレ「それぞれの同盟国、アメリカはどう見ているのか。」

"（吹替）「強い懸念を抱き、とても残念に思います。」

ナレ「こう話すのは、長年アメリカ国務省で北東アジア外交を担当してきたエバンス・リビア元国務次官補代理だ。」

エバンス氏（吹替）「韓国がやったこと、GSOMIA を破棄するという事は、自国の安全保障ばかりか、北東アジアでのアメリカ主導の同盟体制と、安全保障の幸三も弱体化させるということです。」

金平（字幕）「この日韓関係の行き詰まりを解決できるのは？」

エバンス氏（字幕）「今、日韓両政府に求められることは、何かをして状況を悪化させることではありません。それがまず何よりも大事です。次に双方に求められるのは、これで得をするのは、北朝鮮と、中国・ロシアを含むその同盟国だということを、理解することです。誰が得をするのか、日本と韓国が気付くことができれば、即座に交渉のテーブルに戻る方法は見つかるし、両国は問題を解決外交的に解決しようとすると思います。」

特集のVTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「関係悪化といわれますけれども、市民レベルでは、さほど変わらず落ち着いているとも聞きますよね。金平さん実際に韓国の市民に日本に対する感情を聞いてみて、改めてどう感じましたか？」

金平「あのね、日本の一部報道を見てるとね、まるでこう、韓国全体が、あの反日本みたいな感じで凝り固まっているように、そういう印象を持たれてるんだとしたら、大間違いですね。非常に落ち着いていて、水曜集会ってのも、VTR で糾弾するぞーっていうようなシュプレヒコールが流れてましたけれども、実は、この集会には、日本からの若い参加者もいてスピーチしてたんですよ。で、韓国のメディアの人たちも、煽っちゃだめだよっていう、冷静な発言が多かったんですけども、まあ自戒を込めて言うんですが、あの、東亜日報のシムさんですね、元編集局長がかつて東京にいた、勤務してた人ですけども、かつて尊敬してた日本のメディアっていうのが、どんどんどんどん多様性を失っているんじゃないのかということ言われてちょっとギクッとしましたですね。」

膳場「市民は落ち着いている。その一方で、政治家の発言によって外交関係はむしろねじれていっているように見えますけれども、心配ですよ。」

金平「そうですね、アメリカにしてみると、日韓の二者のケンカに自分たちもまきこまれたみたいな感じで、不快感を表明していて、それが、形になって出てきていると。来月の4月8日からですね、4日から、米韓軍事当

局者の定期協議っていうのがあったんですけども、これは中止になっちゃいましたですね、一方で。その北朝鮮はそのニュースにもありましたけれど、GSOMIA の破棄に失望したというような国防長官の発言に対し、強い反発をしてですね、これでトランプ大統領の、米朝対話、遠ざかるというようなことを言っていてですね、そういう意味で言うと、アメリカの同調、国防長官の発言ってのは、トランプ大統領のその目玉政策まで傷つけるというような形になっていて、その問題がどんどん広がっているというのが現状ですね。」

この特集に当てられた時間は 1411 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】拘束された“民主の女神”

番組の冒頭で金平キャスターが今回の特集を念頭に「ええ、木を見て森を見ずということわざがあります、一部のことばかりに目を奪われて全体が見えなくなる。日韓関係の悪化には対立ばかりも伝えるメディアにも責任があります、一方で決して見逃してはならない出来事もあります、それが全体状況を象徴するからです。ええ香港の民主化運動のリーダーの逮捕がそうです、特集でお伝えします。」とコメントしていたが、まさしく、そのコメントの通りで、香港のデモや民主化運動とそれに対する中国北京政府および香港政府の対応はまさしく、中国は日本や韓国およびアメリカとは違い、法の支配やリベラルデモクラシーの価値を共有できていない、ということを実感的に物語っているように感じられた。

・【特集】揺らぐ日米韓の連携

金平キャスターがスタジオで「あのね、日本の一部報道を見てるとね、まるでこう、韓国全体が、あの反日本みたいな感じで凝り固まっているように、そういう印象を持たれてるんだとしたら、大間違いですね。非常に落ち着いていて、水曜集会ってのも、VTR で糾弾するぞーっていうようなシュプレヒコールが流れてましたけれども、実は、この集会には、日本からの若い参加者もいてスピーチしてたんですよ。」とコメントしていたが、日本からの若い参加者がどのようなスピーチをしていたのかは VTR で示されていなかったのが非常に残念だった。

また、「一部報道を見ているとね」とコメントしていたが、その一部報道には報道特集を扱っている TBS も多分に該当しているという自覚は金平キャスターにはあるのかということは気になった。それとも、たとえ同じ曲と言えども自分の担当していない番組のことなど知ったことではない、ということなのだろうか。